

★ 学校向夜崎釜ヶ(復称) 49回

今夜は時よび、「喜望の家」(題名)を テーマに「人夫出し」

最近の現場と飯場の状況

■ 今回は「人夫出し」最近の現場と飯場の状況」と題して、情報交換を中心に進めていきたいと思えます。

■ そのために、先日号外のドラえもんをききましたが、いまのところ仲間の反応はいまひとつです。

■ 最近の夜間学校でも感じることで、**「人夫出し」に対する不満はよく聞かれますが、それが単なる不満や、グチに終わっているのではないだろうか。**

(復称)釜ヶ崎夜間学校とは……

我々が釜ヶ崎で、あるいは日雇労働者として生活していく中で、誰れもがいつかは必ずぶつかるといえる問題であると同時に皆の問題でもある仕事や病気の問題等を皆の力で解決していく

■ いうまでもなく、「人夫出し」もただ人を進めて送っているだけではありません。彼らも我々以上に、経済の動向と労働者の様子を常にうかがい、労働者がひとりひとりバラバラで力が弱いと見ると賃金を下げたり、追い回しをかけることがあります。

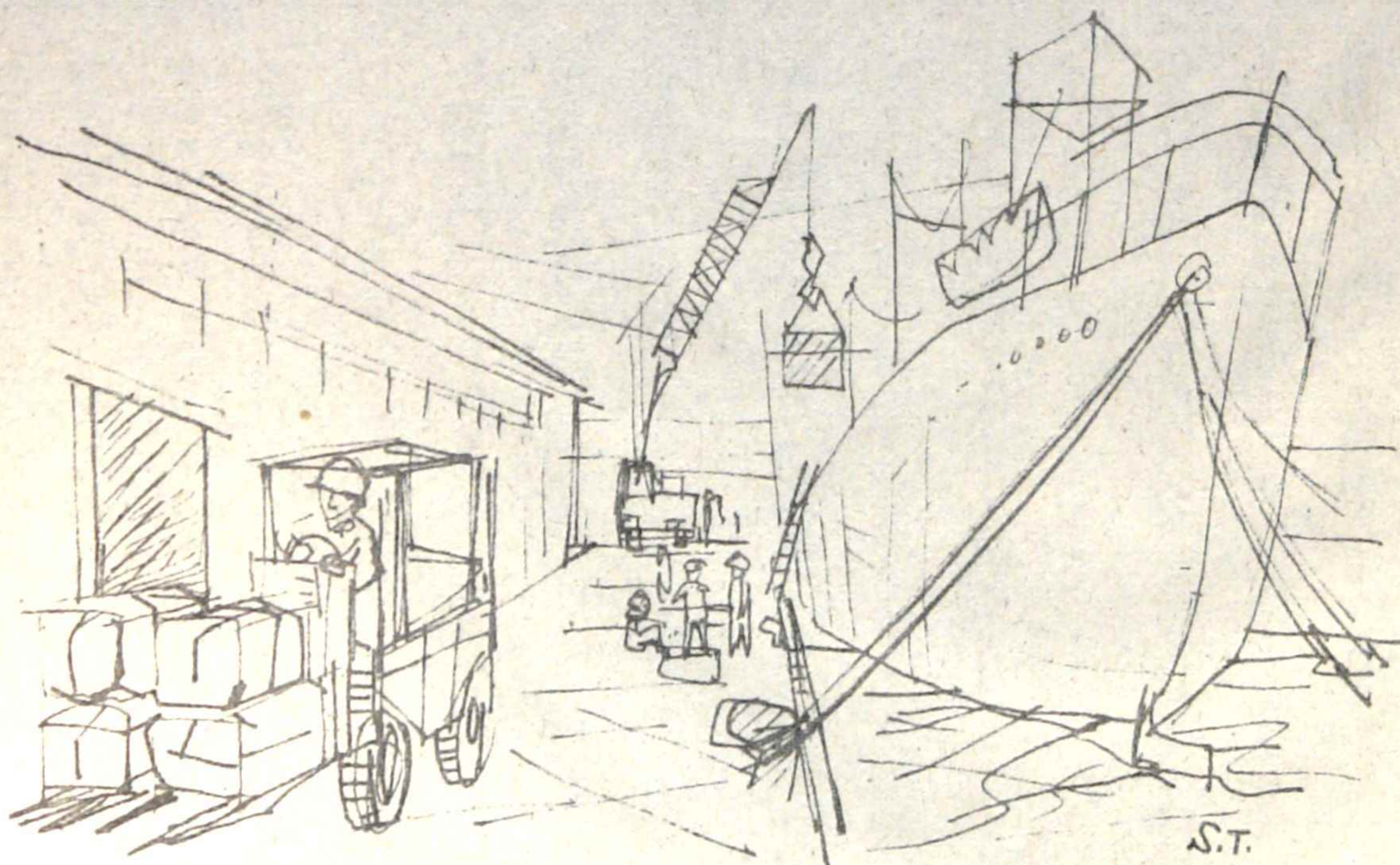
■ 我々が最も恐れなければならないのは、「人夫出し」にピンハネされることに慣れてしまうことです。

為に、先生と生徒の関係でなく、皆が生徒で先生でもあると言つ対等な関係の中で、互いに知識と経験を通して学びあう自由な場です。

是非多くの仲間が参加して下さい。又、運営にも積極的に参加して下さい。

■ そして、次には「人夫出し」に対する不満を一人だけの問題に終わらせずにはなく、仲間全体の問題として考えていかなければなりません。

■ 二のこをふまえて、多くの仲間が参加することを望みます。



(仮称)釜ヶ崎夜間学校ニュース

第48回報告 テーマ「なんでも話そう」

どうすれば、団結できるのか

今回は、特にテーマを設けず、身近な話題をもちよって話し合いました。以下は、話し合いの一部です。

「単価が安すぎる。」

「東京なら8千円以上や。」

「中国は、病院の委員長が賃金も日雇労働者と同じくらいですよ。俺たちは、道路をつくったり、建設したり、人間には

欠かせないことをしているのに、日本ではどうしてこさげすまれ、バカにされるんや。」

「それは、根本的に政府の主義が違う。」

「すぐには、日本は中国のようにならないから、まず、われわれの身近な問題から解決していかないかな。」

「認定の金と仕事に行った金とあまり差がない。仕事に行くのは印紙をはってもらうための、仕事するよりも認定もらっていた方がいい、という人も多いんやないか。認定の金は、賃金が上がらなければ

は上がらない。」

「家族もっている人は、認定の金ぐらいいは食べていけないと思う。もつといい職場だったらいいいが、職場を良うしてもらうのはむずかしい。」

「認定のために矛盾がおおい隠されていることが多い。全国の寄せ場間で歩調を合わせていかなあかんと思ってる。業者と話し合う場をもつということはできないやろか。」

「労働者が、団結せにやどうにもならへんのと違うか。」

「なんて、団結できないのか、という所を考えていかなあかん。」

「落ちる所まで落ちないと、団結でけへんのと違いますか。」

「困った時に立ち上がるのは、結局一時的なものや。基本的なことを変えようと思えば、みんなて勉強し

て力をつけなあかんと思う。」

「自分自身が、どういう状況の中で、生きているのかを、見つめることが必要だと思っ。」

このような話し合いのあとで、今後、夜間学校で、レクリエーション(のど自慢や経済学の基礎的な勉強をしたい、という声がありました。

●われわれの手で「文集」をつくらう。素晴らしい「詩」を寄せて下さった仲間もいます。詩・散文・評論などをあ送り下さい。

(仮称)釜ヶ崎夜間学校運営委員会準備会
西成区萩の茶屋2-18-18・喜望の家内
電話 06(647)3946

●毎週木曜日 夜7時~10時頃まで

